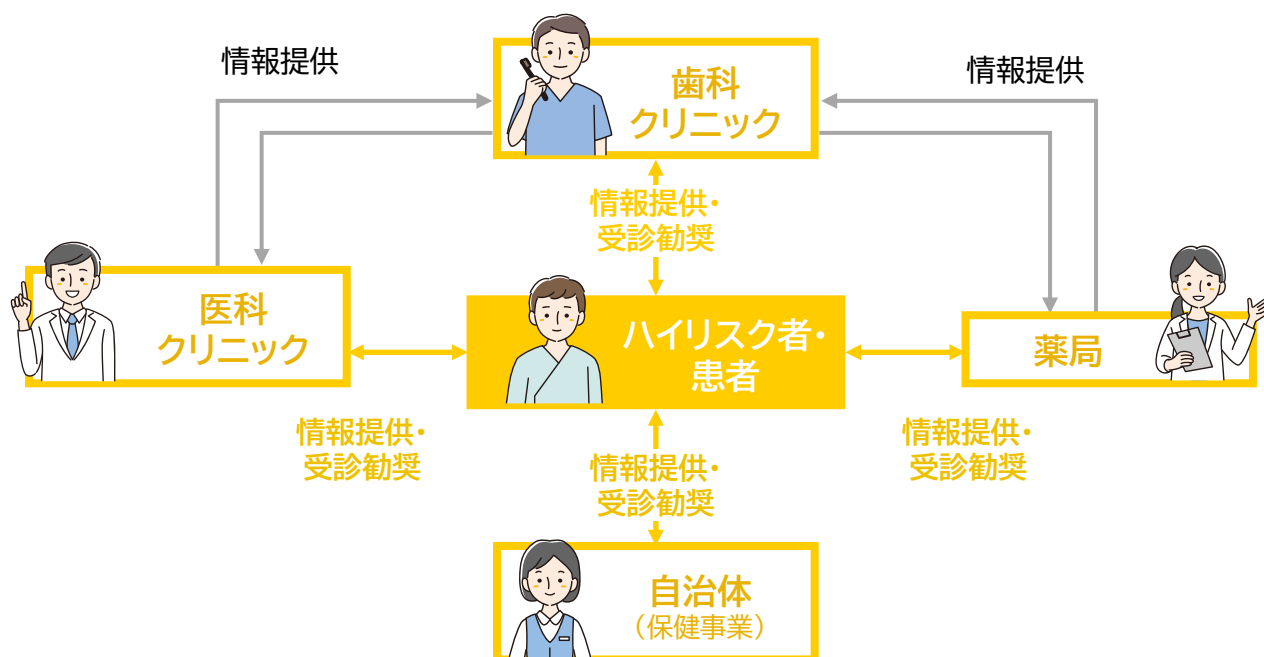


医歯薬連携のための クイックマニュアル



医歯薬連携により糖尿病・歯周病の重症化を予防

歯周病または糖尿病リスクが高いと判断された患者様に対して、医歯薬・自治体が連携してアプローチすることで早期かつ多面的な介入ができるほか、地域で見守られているという安心感や信頼感を患者様に与えることができます。



医歯薬連携プログラムにおける歯科医師・歯科衛生士の役割

- 歯科クリニックでは、歯周病の治療で通院されている患者様に対して、糖尿病リスクのチェックリストを渡し、リスクが高い方にはリーフレットによる情報提供と、必要に応じて医科への受診勧奨を行います。
- 歯周病の患者様は糖尿病のリスクも高まるため、医科に適切につなぐことで、糖尿病予備群の早期発見、早期治療が可能になります。
- 医科や薬局と連携することで、患者様の血糖値を含めた健康状態や服薬状況を把握することができ、歯周病の適切な治療にもつながります。

STEP 1 プログラム対象者の抽出

40～74歳、かつ歯周病で通院している患者を対象者として抽出



チェックポイント

歯周病の人は糖尿病のリスクも高まります。

該当しない

通常の診療を実施

STEP 2 糖尿病リスク者の抽出

チェックリストに1つでも該当した人を糖尿病リスクがある患者として抽出



チェックポイント

かかりつけ医がいない方、過去1年間健診を受診していない方も要注意です。

該当しない

通常の診療を実施

糖尿病に関するチェックリスト 歯科

本チェックリストは「40歳以上75歳未満の方」かつ「本日が初診または歯周病で再診されている方」全員にお配りしています。以下の説明をご覧ください。①～④の質問にお答えいただき、診察の際に歯科医師にご提示ください。

《歯周病と糖尿病の関係》

歯周病は糖尿病の合併症の一つであり、また、糖尿病は歯周病の2大危険因子の一つであることが知られています。両者は密接に関連しており、歯周病をコントロールすることで、糖尿病のコントロール状態が改善する可能性が示唆されています。

◆お名前 _____

◆ご質問

① あなた自身またはご家族に糖尿病の既往歴がある、または糖尿病の薬を服用している方はいらっしゃいますか。

はい ・ いいえ

② 健診で血糖値が高いと指摘されたことがありますか。

はい ・ いいえ

③ 直近1年間[※]で健診（特定健診、人間ドック等）を受診しましたか。

※チェックリスト記入日から前日までの1年以内の健診を指します。

いいえ ・ はい

④ かかりつけ医はいますか。（3か月に1回程度受診していますか。）

いいえ ・ はい

本チェックリストは愛知県「令和4年度医歯薬連携による糖尿病重症化予防モデル事業」の一環で作成したものです。

STEP 3

情報提供

糖尿病リスクがある患者には、リーフレットを用いた情報提供を実施



チェックポイント

糖尿病と歯周病の関係の説明や、歯周病リスクチェックの活用を推奨ください。



STEP 4

医科への受診勧奨

歯科医師による診察の結果、必要な患者には医科クリニックへの受診勧奨を実施
実施の結果の記録、再度来院した患者の受診状況の確認



チェックポイント

受診勧奨には、診療情報提供書や、糖尿病連携手帳等をご活用ください。

診療情報提供書		令和 年 月 日
氏名	性別	
〒	〒	
市	市	
区	区	
町	町	
番	番	
号	号	
TEL	TEL	
FAX	FAX	
年齢	性別	
年	男・女	
月	国籍	
日	日本	
(歳)	職業	
紹介目的 ご交代のよう申し渡りませんが、上記診療情報をご提供いたします。 ご覧の上、よろしくお取り扱いをお願いします。 <input type="checkbox"/> 糖尿病の現状に関する別添 (血糖値・HbA1c・処方薬等) 治療歴 () 等 <input type="checkbox"/> 糖尿病の疑いがあるため (前用紙を反応書が別添)		
糖尿病の診断状況 <input type="checkbox"/> 確定診断のみ (診断書) 年 月 日 <input type="checkbox"/> 診断不確 (診断書) () 年 月 日 <input type="checkbox"/> 診断未 (診断書) () 年 月 日		
糖尿病の収束 無し / 軽微 / 中等 / 重症		
口腔内の状態 可食程度 あり / なし () 年 月 日 <input type="checkbox"/> 口腔清掃状態 良 / 普通 / 不十分		
その他所見 (病状) なし / あり () 年 月 日 / 併発病 () / 併発病 () / 併発病 () / 併発病 ()		
備考 (診療状況やお問い合わせ、診療内容等も記録)		

医歯薬連携プログラムの効果

令和3年度事業では、**6地域95の医療機関**がプログラムに参加しました。2.5か月間の試行期間中、**約7,500名のプログラム対象**のうち、**約6,200名にリーフレット**による情報提供を行い、また**約2,000名に受診勧奨**を実施しました。

参加医療機関へのアンケートの結果

患者の糖尿病と歯周病の関係性について理解の促進につながっただけでなく、参加機関が医歯薬連携の重要性を再確認する機会となった

今後も医歯薬連携を進めていくべきである(回答した医療機関の9割以上)



歯周病治療の効果

歯周病による炎症部分の広がり(面積)は、すべての歯の総和にすると約72cm²となり、これは手のひらとほぼ同サイズになります。

糖尿病と歯周病のある患者に歯周病治療を実施すると、PISA(歯周病ポケット炎症面積)に加え、HbA1cの数値が低下するといった効果があらわれます。

糖尿病+歯周炎のある患者(40代)の歯周病治療例



歯周病治療前
歯科初診時

歯周ポケット平均	4.9 mm (炎症++)
PISA (歯周ポケット炎症面積)	2291 mm ²
HbA1c	7.9 %
内服薬	ピオグリタゾン (インスリン抵抗性改善薬) トラゼンタ (DPP-4阻害薬) セイフル (αグリコシターゼ阻害薬) アムロジピン (Ca拮抗薬) など



歯周病治療後
メンテナンス時

歯周ポケット平均	2.5 mm (炎症→)
PISA (歯周ポケット炎症面積)	91 mm ²
HbA1c	6.9 % (1.0%↓)
内服薬	トラゼンタ (DPP-4阻害薬) ボグリボース (αグリコシターゼ阻害薬) ミチグリニド (速効型インスリン分泌促進薬) アムロジピン (Ca拮抗薬) など

(愛知学院大学歯学部 菊池 毅 准教授 より提供)

リーフレットより一部抜粋

医歯薬連携プログラムの取り組み事例

西田歯科医院（愛知県小牧市）



院長
西田 泰大 先生

本プログラム実施の際の工夫点

対象者の抽出は受付事務、チェックリストは主に歯科衛生士や歯科助手、リーフレットの説明や受診勧奨は歯科医師が行うなど、スタッフ間で役割を分担して実施しました。また、事前にスタッフとのミーティングを行い、歯周病と糖尿病の関連性について事前に説明しました。

本プログラムの感想

歯周病が全身に影響を及ぼすことに驚く患者さんもいましたが、リーフレットを活用したため説明しやすかったです。今回の声かけにより患者が糖尿病連携手帳を持参してくれるようになり、積極的に記載するよう心掛けました。また、本事業をきっかけに近在医院の看護師より、コメディカルの会を作りたいとの希望があり、当院歯科衛生士とのオンラインでの交流を開始しました。

今後に向けて

地域連携を進めるためには互いに顔が見える関係を作ることが重要です。そのためには勉強会・研修会等、オンラインの活用が有効ではないかと考えています。また、小牧市歯科医師会HPでは、医師・薬剤師からの紹介を目的として登録歯科医を掲載し、糖尿病医歯薬連携に活用しています。

さくら歯科クリニック（愛知県豊橋市）



院長
藤城 治義 先生

本プログラム実施の際の工夫点

受付で「糖尿病連携手帳やお薬手帳を持っている場合は見せてください」と声がけしました。診療情報提供書と異なり、診療中でも時間をかけずに記入できるので気軽に活用できます。連携のきっかけとして、まずは手軽な手帳を活用するのも1つの手かもしれません。

本プログラムの感想

リーフレットは写真も使っていてわかりやすく、説明の際に活用しやすかったです。リーフレットの内容を説明した上で、セルフチェックリストをやってもらうことで、患者さんからは「勉強になった」「知らなかった」といった声も聞かれました。

今後は健康フェスティバルでリーフレットを配布するなど、市民への周知・啓発も進めていきたいと考えています。

今後に向けて

豊橋市では三師会が集まり意見交換をする機会があり、顔の見える関係が出来ていました。気軽に相談できる先生がいたこともあって協力しながら実証を進めることができました。また、豊橋市は愛知県内でも歯周病や糖尿病の患者が多く、この課題を改善したいという方向性が三師会で一致していたこともうまく連携できた一つの要因と考えています。

医歯薬連携プログラムとは

歯周病と糖尿病の両者が密接に関連しており、歯周病をコントロールすることで、糖尿病のコントロール状態が改善する可能性が示唆されていることから、医歯薬が連携し、糖尿病患者の歯周病リスクを低減することは、糖尿病重症化予防の観点から重要です。

愛知県では、国保ヘルスアップ支援事業の一環で、国保加入者を対象として、愛知県医師会、愛知県歯科医師会、愛知県薬剤師会にご協力いただき、医歯薬連携による糖尿病重症化予防のためのプログラムを開発しました。

地域のかかりつけ医・歯科医・薬剤師、さらには自治体が連携することで、リスクがある患者様に対する早期発見・早期介入につなげることができます。

本事業の詳細、リーフレット、参加医療機関はこちら

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kokuho/ishiyaku8.html>



ご存知ですか?

糖尿病と歯周病との関係

- 歯周病は糖尿病の慢性合併症のひとつです。
- 歯周病の治療を行うと血糖コントロールが改善し、糖尿病重症化の予防に繋がる可能性があります。

糖尿病・歯周病の治療

歯周病の心配がある人は、かかりつけ医やかかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師に相談しましょう。また、自治体の健診も受診しましょう。糖尿病は、医師、歯科医師、薬剤師が連携して治療に取り組むことで重症化を防ぐことができる病気です。

愛知県では、医歯薬連携による糖尿病重症化予防に取り組んでいます

愛知県 公認社会人愛知県医師会 一般社団法人愛知県歯科医師会 一般社団法人愛知県薬剤師会

医歯薬連携による糖尿病重症化予防モデル事業についてのご案内

保健師の皆様は、ぜひ本事業の趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。

医歯薬連携による糖尿病重症化予防モデル事業について

糖尿病は糖尿病の合併症のひとつであり、また、糖尿病は喫煙と並んで歯周病の2大危険因子のひとつであることが知られています。両者は密接に関連しており、歯周病をコントロールすることで、糖尿病のコントロール状態が改善する可能性が示唆されています。

医・歯・薬が連携し、糖尿病重症化予防の観点から重要で、そこで、愛知県では、令和2年度、国保加入者を対象として医歯薬連携による糖尿病重症化予防のためのプログラムを開発しました。令和3年度は、愛知県内の一部の歯科クリニック、歯科クリニック、調剤薬局にて本プログラムの試行を実施しました。令和4年度は、豊橋市全域の歯科クリニック、歯科クリニック、調剤薬局のご協力を得て本プログラムを実施しています。

また、豊橋市では、特定保健指導対象者のうちHbA1cの値が高い方に対して、本プログラムで作成したリーフレットを用いた情報提供を行うとともに、歯周病リスクが高い方には歯科への受診勧奨を行う取り組みを行っています。

なお、本事業は、愛知県医師会、愛知県歯科医師会、愛知県薬剤師会ならびに各試行地域の医師会・歯科医師会・薬剤師会にもご協力をいただきながら進めています。

※名古屋市区、清洲市、小牧市、碧南市、東海市、豊橋市から全95機関が参加。

お問い合わせ先

愛知県国民健康保険課 国保運営グループ